



INGING MOTORSPORT



2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. 1

鈴鹿サーキット

予選 4月20日(土)

天候:晴れ コース状況:ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権が鈴鹿サーキットにて開幕！今季は、昨年の全日本F3選手権チャンピオンでSFにステップアップして来たルーキー坪井翔（23歳）選手と2015年、2017年のシリーズチャンピオンであるベテラン石浦宏明選手の2名が、新型ダラーSF19を操り、ライバルたちとの熱い戦いを繰り広げる！！

#38 石浦宏明 14位 #39 坪井 翔 18位



いよいよ開幕戦のレースウィークを迎えた。予選日の今日は、朝から快晴、春らしいぽかぽか陽気に恵まれたサーキットには、シーズンの幕開けを待ちに待ったたくさんのファンが詰めかけた。今朝のフリープラクティスは、石浦8番手、坪井16番手。2輪のレースも併催している今大会は、路面の状況も思いの外変わるのがこの大会だ。そんな中、予選を控えた午後3時過ぎには、気温も20度を超え、路面温度は25度に達し、風が若干吹く中、オンタイムで公式予選がスタートした。今季から、公式予選のQ1通過台数は、12台、Q2通過は8台とレギュレーションが変更されている。2台共に新品ミディアムタイヤでコースインした。開始5分、39号車坪井が、1コーナーから2コーナーへ向かうアウト側の縁石に乗り過ぎバランスを崩しコースオフ。ここでクルマを降り、初めての予選アタックは、18位という結果で終えてしまう。

残り15分16秒で再開したQ1だったが、坪井と同じルーキーの7号車がスピン。2回目の赤旗が提示された。

残り11分43秒で、再開したQ1。各車、コースインするも石浦はピットで待機。残り7分をまわった所で、石浦はコースインした。スプーンでスピンが発生し3度目の赤旗の提示。この時点で、誰もアタック出来てないという何とも荒れた予選。残り5分14秒で、予選が再開し全車がコースインしたが、計測2週の予選終了までギリギリのタイミング。全開でアタックできるのは、たった1周。そのアタックで石浦の出したタイムは、1分39秒078で、14番手となり、2台ともにQ1敗退という厳しい予選結果となった。明日の決勝レースではチーム全員が最善を尽くし、少しでも順位を上げポイントの獲得を目指す。





ドライバー #38 石浦 宏明

シーズンオフから良い流れで来ていなかったのですが、今回は、このレースだけではなく、シーズンを通して、強いクルマになるようにしたいと思い臨みました。予選前は、行けるという感触があったのですが、2輪のレースがあり、コースのコンディションが変わり、若干セット変更。そこまでフィーリングは悪くなかったのですが、データで見たら、コンマ4秒くらい悪く、それがQ1を通過できなかった要因となってしまいました。しかし、Q1を通ったとしても、トップが狙えるような速さではなかったため、ドライビングとクルマのコンディションを見直したいと思います。明日は明日で気持ちを切り替えてベストを尽くしたいと思います

ドライバー #39 坪井 翔

1セット目のタイヤでアタック中に、1コーナーから2コーナーの間のアウト側で、縁石に乗り過ぎてスピンをしてしまいました。2セット目でしっかりアタックする必要があったので、戻って来なくてはいけなかったのですが、チームには申し訳ないと思っています。テストでは、スピンもなかったのに残念です。レースウィークに入り、練習走行もあまり流れが良くなく、セットアップもいろいろ変更していました。予選のセットアップについて、ガラリと変更していたので、確認したいと思っていた矢先のスピンだったので、残念です。明日は完走を目指したいと思います



監督 立川 祐路

今シーズンのこのクルマになって、2台ともセットアップが決まり切っていない状態で、今日の予選を迎えることになってしまいました。結果2台ともQ1落ちという事になってしまい、非常に残念です。でも明日に向けて、また、その先に向けて頑張っていけないといけないので、悲観せず、そして、諦めずにここからしっかり戦って行かないといけないと思っています。昨年までと比べると、クルマが変わったことで今ひとつの状態が続いているので、なんとかしたいと思っています。坪井は、ルーキーですけど、頑張っていますし、今回は、勢いあまって、アタックに入ったところで、スピンしてしまいましたが、チカラのあるドライバーということにはわかっています。彼にとっても初めてのレースなので、まず今回のレースをしっかり走り切り、次に備えたいと思います



INGING MOTORSPORT



2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. 1

鈴鹿サーキット

決勝 4月21日(日)

天候:晴れ コース状況:ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権の開幕戦決勝日、鈴鹿サーキットは、曇天ではあるが暖かい陽気となった。朝の練習走行は、他陣営の内容は不明ではあるが、ペースも良く、トップタイムに39号車坪井が来るなど、決勝レースを見据えいい状態で終えることができた。

#38 石浦宏明 リタイヤ #39 坪井 翔 5位



決勝は、午後2時にスタート。気温は、25度、路面温度は、37度まで上がった。この気温、路面温度は、テスト走行していない領域である。スターティンググリッドに並んだ20台は、7台がソフトタイヤを選択。その1台は、38号車石浦。坪井はミディアムタイヤを装着しグリッドについた。

14番グリッドからスタートした石浦は、快調にオープニングラップから11位、3周目に10位、5周目に9位、8周目で6位まで上がった。しかし、他車のクラッシュによりその時点で1度目のセーフティーカーが導入された。坪井は、18番グリッドから16位と2つポジションを上げた矢先だった。

セーフティーカーラン中、コースにステイアウトしたライバルの2台を残し、一斉にピットインした。CERUMO・INGINGの2台も勝負権がなくなるのを避けピットイン。先に石浦、その後坪井がピット作業を行った。タイヤは、石浦がソフトからミディアム、坪井は、ミディアムからソフトへ交換しピットアウト。12周目にレースが再開した。

14周目、再びコース上で他車のトラブルが発生、15周目に2回目のセーフティーカーが導入された。この時点で、ミディアムタイヤでペースが落ちてしまった石浦は、ソフトタイヤに再び戻すことを選択しピットへ向かった。しかし、ピットアウトする際にギアが壊れてしまいコース復帰ならず、残念ながら15周で戦線離脱となった。





レースは、18周目に再開し、坪井は9位で走行していたものの、他車のトラブルにより3度目のセーフティーカーが導入された。この時点で、コース上のクルマは13台のみ。坪井の順位は8位。22周でレースが再開すると、坪井はタイヤを労りながらも快調な走りを見せる。ペースも、1分44秒台を乱さず安定し周回を重ねる。27周目に再びアクシデントが発生、決勝セッション中、とうとう4度目のセーフティーカーが入った。この上なく荒れた展開の中、気づけば坪井は7位。

その後、32周目でレースが再開すると、坪井に後続が仕かけて来る。しかし、坪井は集中力を切らすことなくオーバーテイクシステムを使い、追従を許さない。最終的に、上位のクルマが最終ラップでピットインし後退、そしてまた別のクルマにペナルティが出て、その影響で2つポジションアップ。5位でフィニッシュ、デビュー戦を入賞で終えた。

新型車両の戦いは、非常に荒れた展開となったが、新しいタイヤの使い方、それを使った戦略など、今後のシリーズへ活かせるものが豊富にあった。なかなか掴み切れていないクルマの攻略は、まだまだ続くが、リタイアとなってしまった石浦の痛手も無駄にしないようシーズンを戦って行きたい。次戦は、5月18日（土）、19日（日）九州オートポリス（大分県日田市）で行われる。



ドライバー #38 石浦 宏明

スタート前からセーフティーカーのリスクがあるという事はわかっていましたが、ソフトの方が調子が良かったので、ソフトでのスタートを選択しました。序盤、何台かオーバーテイクし、実質5、6番手まで行き、あの瞬間までは順調でしたがセーフティーカーが入ってしまいました。この時点でピットに入らないと終わりなのでピットインしました。残りがミディアムになってしまった為、もう一回SCが入った時点でソフトに戻しました。しかし、ピットアウトする際にギアが壊れて終了となってしまいました。今回のレースを、今後のレース戦略に生かしてまた頑張ります。

ドライバー #39 坪井 翔

昨日の予選が予選だったので、ノープレッシャーでスタートできました。スーパーフォーミュラでのスタートも初めて、長距離も初めてのレースで、どうなることやらと心配して臨んだレースでした。しかし、ひとつでも順位を上げることを考えました。ミディアムタイヤでスタートしましたがペースがあがらず、ピットに入りたと思っていた所で、SCが導入されました。そのタイミングでタイヤを交換できたのが、大きかったです。一斉にピットインしたクルマが多く、先に石浦選手を行かせ、待っていましたが、その間のロスが大きかったように思います。あれがなければもう少し良かったかなと思います。自力でも何台か抜きましたし、タイヤも余力を残しておけ後続が来て大丈夫だったので、開幕戦は合格点を自分にあげたいと思います。順位に関しては、他が脱落して行ったりもあり、良い決勝になりました。





監督 立川 祐路

荒れたレースの中、後方から追い上げる決勝となりました。まず石浦の方は、得意のソフトタイヤでレースを引っ張る作戦にしました。しかし、思いの外、早めにセーフティーカーが導入されてしまい、ここでピットに入らないという選択はないので、タイヤを変えざるを得なくなりました。その為、ソフトタイヤを捨てることになり、セーフティーカーが入った時点で、石浦にとっては不利になりました。2度目のセーフティーカーが入り、またソフトに戻しましたが、ピットアウトの際にギアのトラブルが出てレースが終わってしまいました。坪井の方は、ミディアムスタートだったので、流利的にととも良い展開となりました。新人ながらも順調にレースを運び、後ろからフレッシュタイヤを履いたクルマが来てもしっかり守れたので、とても頑張ったと思います

RESULTS/RANKING

正式決勝結果（上位10台抜粋）

Pos	No	Driver	Type	Team	Time/ Behind
1	37	N.キャッシュディ	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	1:28'21.365
2	1	山本 尚貴	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1.749
3	3	山下 健太	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	2.399
4	16	野尻 智紀	HONDA HR-417E	TEAM MUGEN	8.265
5	39	坪井 翔	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	10.522
6	4	国本 雄資	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	10.825
7	50	L.アウアー	HONDA HR-417E	B-Max Racing with motopark	13.989
8	15	D.ティクトウム	HONDA HR-417E	TEAM MUGEN	15.097
9	18	小林 可夢偉	TOYOTA Biz-01F	carrozzeria Team KCMG	30.912
10	7	A.マルケロフ	TOYOTA Biz-01F	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	37.082
-	38	石浦 宏明	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	28Lapsリタイア

ドライバースタンディング （第1戦終了時点 上位5名抜粋）

Pos	No	Driver	Point
1	37	N.キャッシュディ	10
2	1	山本 尚貴	8
3	3	山下 健太	6
4	16	野尻 智紀	5
5	39	坪井 翔	4

チームスタンディング （第1戦終了時点 上位5チーム抜粋）

Pos	Team	Point
1	VANTELIN TEAM TOM'S	10
2	KONDO RACING	9
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	8
4	TEAM MUGEN	6
5	JMS P.MU/CERUMO INGING	4